——會　告——

新年度の會費納入相成度御願い

御承知の通り會誌の發行は近頃は前金でいただきませんと到底發行を續けられません（紙代と印刷屋への拂いも皆前拂いです）。何卒毎月絶えず發行が出來ますよう事情御諒察の上直ぐ昭和 26 年度會費（昭和 26 年 1月～昭和 26 年 12 月）

維持會員	お約束いただきし口數の金額	
正會員	500 圓	（御都合で 2 回拂でも差支ありません）
學生會員	200 圓	

をお拂込み下さい。特にお願い申上げます。

尙會費拂込み延滯の惧れあるお方は兎に角直ぐ上記額の會費を御納入下さい。本會に着金後何年度分に相當するか調査の上これらを明記した領收書を差上げますから振替用紙（昨年 11 月號に封入して差上げてあります）で至急お納め下さい。振替口座　東京　１９３番

日本鐵鋼協會々員名簿特別價格頒布

久振りで會員名簿が出來ました．現在會員の住所，御勤務の箇所は勿論本部支部役員，評議員，表彰者の芳名は元より會員として是非御承知を願い度本會の定款，同實施細則，研究部會，各記念資金取扱規程等詳細掲上してありまして，これから御入會の諸君には入會と同時に是非お買求めをお進めして買つていたゝいている次第です．どうか現在會員でいらつしやる諸君に於かれましても是非此際一册お買上げの光榮に浴し度お願いたします．

1 册特價割引　100 圓（送料別に 15 圓）

日本鐵鋼協會第 41 回春季講演大會講演募集に就きお斷り

今期講演大會講演募集に關しましては皆様の御支援で續々お申込みを得1月 25 日を以て一先づ受付けを締切りました．然るに今回も皆様の御便利をはかり例年通り日本金屬學會と連合してプログラムを作成した方が良かろうということになりましたので

1. 製鐵製鋼（燃料，耐火物を含む）．**2. 鋼の加工熱處理及性質．3. 鑄鐵鑄鋼**に關するものは日本鐵鋼協會の擔當．**4. 金屬物理**（試驗法を含む）．**5. 金屬化學**（分析法をむ含む）．**6. 金屬材料** に關するものは日本金屬學會の擔當としてその會場も夫々の分擔といたし實施いたすことゝなりましたから豫め御諒承下さい．

"PHYSICAL AND WELDING METALLURGY OF CHROMIUM STAINLESS STEELS" の頒布について

昨年 8 月米國ニューヨーク市の Welding Research Council の "Helmut Thielsch" 氏から送られました著書 "Physical Metallurgy of Austenic Stainless Steel" は非常な好評を以て忽ちに賣り盡されましたが，今回更にその續篇とも云ふべき標記の原文 60 頁圖表 22 頁より成る不銹鋼の研究及び[illegible]に極めて有益なものが送附せられましたので復寫いたしました。次の實費で頒布のことゝなりお申込み順で直に發送いたします．　**頒布價格　1 册　450 圓**（送料別に 40 圓）

“鋼の熱處理と作業標準”出版（限定版）豫約申込受付

本會特殊鋼部會に於て一昨年來部會長石原善雄君，主査佐藤忠雄君の下に東大機械試驗所，新扶桑金屬，日本製鋼所，日立製作所安來工場，大同製鋼，神戸製鋼，東京鋼材，東都製鋼等主要研究機關，製鋼工場より專門の委員を選び構造用特殊鋼，鍛鋼鑄鋼，ばね鋼，軸受鋼，各種工具鋼等の熱處理の原理と作業準標とを十數回に亘つて檢討を加へてまいりました結果今般漸く完成出版の運びになりました．熱處理作業に携る技術者は勿論のこと設計者その他機械技術者或は學生諸氏にも稗益するところ大なるものがあると存じますので次記要綱御諒承の上無くならぬ内に至急お申込み下さい．

申　込　要　綱

豫約申込締切期日	昭和 26 年 3 月末日
竣成配本期日	昭和 26 年 3 月末日
豫約申込特價	1 册　金 300 圓（送料として別に 40 圓）お申込みと同時に御送金のこと
體　　裁	B 5 版 約 150 頁（總クロース上製美本）
內　　容	

緒　言

第1編　總　論

第1章　熱處理に關する術語の意義．第2章　熱處理加熱爐．第3章　熱處理操作．第4章　試驗及び檢査法．

第2編　各　論

第1章　鍛鋼の熱處理作業標準．第2章　機械構造用炭素鋼の熱處理作業標準．第3章　構造用大物特殊鋼の熱處理作業標準．第4章　構造用小物特殊鋼の熱處理作業標準．第5章　肌燒鋼の熱處理作業標準．第6章　窒化鋼の熱處理作業標準．第7章　ステンレス鋼の熱處理作業標準．第8章　耐熱鋼の熱處理作業標準．第9章　炭素工具鋼の熱處理作業標準．第10章　特殊工具鋼の熱處理作業標準．第11章　ヤスリ鋼の熱處理作業標準．第12章　ダイス鋼の熱處理作業標準．第13章　高速度鋼の熱處理作業標準．第14章　バネ鋼の熱處理作業標準．第15章　軸受鋼の熱處理作業標準．第16章　普通鑄鋼の熱處理作業標準．第17章　特殊鑄鋼の熱處理作業標準．第18章　燒戾性能曲線．

附　錄　日本工業規格拔粹

日本鐵鋼協會『鐵と鋼』誌へ寄稿規程

（今般鐵と鋼誌への寄稿規程を下記の如く改正しましたので御寄稿の際は御熟讀願ひます
尙本規程に添はざるものは御返却申しますから豫め御了承願ひます）

1. 原稿用紙は本會所定のものを用いること．御請求次第一冊（30 枚綴）30 圓にてお送りします．
2. 論文は出來るだけ簡單にし圖表を含めて會誌 5 頁（400 字詰原稿用紙 25 枚）を超えないこと．
3. 論文の冒頭には歐文のアブストラクトを記載すること．
4. 本文は成るべく常用漢字を用い，平かな交り左横書きとし，新かなづかいを用い，術語は工業標準用語及び學術標準用語を使用すること．
5. 數字は算用數字を用い，外國語は片假名にて，外國固有名詞は原語のまゝ記すこと．
6. 圖・寫眞・表はなるべく少くし（圖，寫眞は 10 個以内に制限）同一事項を圖表兩方にて表わすことを避け，次の要領に從うこと．

（イ）圖及び寫眞は圖毎に別紙とし，圖は白紙又は淡青色方眼紙に墨できれいに畫き，直ちに凸版にできるようにすること，青寫眞は使用しないこと．

（ロ）圖は幅が 70mm 程度に縮寫しても圖中の文字が明瞭に判讀できるように適當の大きさとすること．但し文字は鉛筆書にされたし．

（ハ）圖・寫眞・表等の挿入箇所は豫め原稿中に指定し，表はなるべく本文中に挿入すること．

7. 數字は印刷に便なるように注意し，文中に挿入するときは a/b, x/(a+b) のように記し，行の上下に出ないようにすること．
8. 各種單位，記號及び數量を表わすには次の例に從うこと．

km（キロメートル）　mm^3（立方ミリメートル）　SKOla～O2a（セーゲル錐零一乃至零二番）
m（メートル）　cm^2（平方センチメートル）　10·35 圓（十圓三十五錢）
cm（センチメートル）　kg/cm^2 毎平方センチメートル・キログラム）　56,350（五萬六千三百五十）
mm（ミリメートル）　kg/mm^2（毎平方ミリメートル・キログラム）　1948 年 6 月（千九百四十八年六月）
t（トン，1000kg）　%（パーセント）　78—85°C（攝氏七十八度乃至八十五度）
kg（キログラム）　cal（カロリー）　Cr-Mn-W 鋼（クロム，マンガン，タングステン鋼）
g（グラム）　Kcal（キロカロリー）　mg（ミリグラム）　hr（時）
m^3（立方メートル）　min（分）　l（リットル）　sec（秒）
cc（立方センチメートル）　1/2N（二分の一規定）

9. 抄錄，譯文及び文獻の出所は著者名，雜誌名，發行年度，卷數，號數，頁數の順に記載すること
10. 原稿は編集委員會に於て取捨變更することがあるから豫め御了承せられたい．